

## TOKUYA TIMES

とくや  
タイムズ

Now

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Summer, 2009, vol.9



## 豊橋の『食』をテーマとしたまちづくり

## 第9号発行のご挨拶

6月議会一般質問は、豊橋の『食』をテーマとした、まちづくりについてです。

本市が誇る豊かな食をテーマに、豊橋市制施行100周年では、「とよはし100祭スローフードフェスティバル」を、シンボルイベントとして開催した。

作家・島村奈津さんによるキックオフ・セミナー、学生を対象とした「子どもと食卓を考える食育セミナー」、主婦などを対象にした「農業とスローフードを考えるセミナー」など、市民協働で開催。さらに、スローフードフェスティバルの事前PRと、食道楽な豊橋のまちを紹介することを目的に「豊橋まちなか食道楽マップ事業」を開催。両面カラーの大判のマップには、豊橋生まれの明治の作家「村井弦斎(むらいげんさい)」のベストセラー小説「食道楽」に描かれた食を提供するお店、この地域の食材を美味しく取り入れた地産地消に取り組むお店、様々なかたちで吉田(豊橋)の食を支え屋号を守ってきたお店を紹介の対象として募集し、116店舗に参加いただいた。

また、スローフードフェスティバルに際して

①「伝統的な食材や伝統的な調理方法を後世に残す」②「いいものを作っている小生産者や小規模農家を守る」③「子どもたちに食育をすすめる」とした「3つの目的」と、  
①「身の回りの『食』を見つめましょう」②「私たちのココロとカラダ、そして暮らし・生き方を見つめましょう」③「スローフードについてみんなで考え、取り組み、楽しみましょう」とした「3つの啓発」を行った。

そして、東三河初の大がかりな食育の祭典「スローフードフェスティバル イン 豊橋公園」は、美味しく、楽しい3日間として38,000人の人出でにぎわった・・・。



## 問題【1】『スローフードフェスティバル』の再総括について

## 『とよはし100祭スローフード』の再総括と、意義を問う

**答** 事業は、運営の全てが市民による実行委員会で進められた。市民の皆さんの持つ『食』に関する情報を最大限に活用し、様々な角度から『食』について考えることが出来たことが成果の一つだと思っている。

加えて、多くの飲食店や学校、農協、食品加工業者などが一堂に会し出店したことで、市民協働の輪が広がり、地産地消の考え方や豊橋の食文化の情報が、多くの市民に深く浸透したことが大きな成果です。

**問** 市制100周年のテーマは「つながり ひろがる 未来 豊橋」であった。100周年のテーマのとおり、スローフードに対する取り組みを、今後どの様に豊橋の未来に向けて、つなげ・ひろげていくのか。

**答** 100周年事業を継承するためにも、一過性に終わることなく継続するとともに、市民協働の観点から積極的支援して行きたい。

## 問題【2】豊かな「食」を背景とした地域振興について

## (ア) 「食」に関連する産業の認識と取り組みについて

豊かな食の歴史をたどれば、大西貝塚などから縄文の漁労生活が、瓜郷遺跡などから弥生期の水稲耕作が、また「穂の国」という名前そのものからもうかがわれる。さらに伊勢神宮や東大寺への献上の記録、今川義元による魚町開設など枚挙に暇がない。また、現在も「食」にかかわる事業所が他市と比較して大変多く存在している。

## (イ) 「食」に関連する観光の認識と取り組みについて

観光を21世紀における日本の重要な政策の柱とする「観光立国推進基本法」を推進するために、昨年「観光庁」が設置された。観光は「見る・食べる・遊ぶ」をその基本としている。

## (ウ) 「食」に関連する交流事業の認識と取り組みについて

「豊橋の産業2009」では、豊橋・田原での地域連携や、サイエンスクリエイティブや技術科学大学との産学官連携事業、海外の見本市出展などによる販路の拡大など、様々な取り組みを報告している。

**答(ア)** 「食」関連産業は、農業・工業・商業とすべての産業に関わる裾野が広い。「食」関連産業をさらに充実・発展させるため、基盤整備や経営支援をはじめ、食品加工技術の向上・開発や、販路拡大に対する支援などに努めています。**答(イ)** 「食」は観光振興に欠かせない重要な要素。豊橋観光コンベンション協会を通じたお土産品の開発・PRへの支援、ファーマーズマーケットの開設・運営面での支援、農業体験ツアー、産地直売所の観光誘致面など、農業を生かした観光について検討を進めている。**答(ウ)** 豊橋田原広域農業推進会議を組織、食育体験講座や地産地消の料理教室、海外における農産物見本市へ参加などに取り組んでいる。

**問** 本市には「食に関連する産業の城下町」の顔がある。

**1点目** 「食」関連産業の発展のためには、「食」についてのブランドの確立とセールスが必要だが、どのように取り組んでいるのかについて、

**2点目** 本市の農産物の市場における競争力と、流通面における優位性について伺う。

**答 1点目** 環境にやさしい農業に取り組む農業者にエコファーマー認定制度を促進し、農産物の安全性や環境への配慮など日本版適正農業規範の取得を促進し、安全・安心なブランドの確立に取り組んでいる。宣伝やセールスは、食農産業クラスターの取り組みによる価値の創造、地域ブランドの確立と販路開拓、販売促進に努めている。

**2点目** 本市農業の流通面における優位性としては、東西両消費地域の間際に位置し、東名高速道路や国道23号等の道路網によりその地理的優位性を十分に発揮することができる。また、生産力の大きさも流通面での優位性をもたらしていると考えている。

**問題【3】 食育について**

「食育」は新しい言葉ではなく、1898年(明治31)石塚左玄が『通俗食物養生法』のなかで(「今日、学童をもつ人は、体育も智育も才育もすべて食育にあると認識すべき」と表現しています。また、1903年本市の前身である吉田出身の村井弦齋は、小説『食道楽』のなかで「小児には徳育よりも、智育よりも、体育よりも食育が先。体育、徳育の根元も食育にある」と書いているように、わが国では食育は家庭教育の根本であった。

しかし、深刻な食糧不足に見舞われた太平洋戦争から1990年ごろまで、「食育」は一旦忘れられた存在となる。ところが、狂牛病、食品偽装による食品への不安や、食品アレルギー、肥満、メタボリックシンドロームの予防と改善、若年層の血糖値の高数値化と糖尿病予備軍化、小中学生の咀嚼回数の低下問題などにより、食は健康の源であり、身体に必要で安全なものを選んで食べていくことは、生命のあり方の根本に直結するという認識へと、「食育」は高まりを見せている。

2005年に成立した「食育基本法」は、附則の冒頭を以下としている。『21世紀における我が国の発展のためには、子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるようにするとともに、すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにすることが大切である。子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。』

今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。』

- (ア) 学校教育における「食育」の認識と取り組みについて
- (イ) 学校給食における「食育」の識と取り組みについて
- (ウ) 社会教育における「食育」の識と取り組みについて伺う

**答 (ア)** 食は人間の基本的な営みであり各家庭の文化を育む場です。また心の問題とも密接です。また、平成18年から3年間下条小学校に「食農教育」の研究を委嘱し、成果を発表しました。

**(イ)** 学校給食は、栄養教諭や学校栄養職員参画のもと、全体計画の作成をすすめ、「とよはし産学校給食の日」や「学校給食アイデア料理コンテスト」などを開催しています。

**(ウ)** 「幼児ふれあい教室」や「親子ふれあい教室」などの社会教育講座において食に関する体験活動を組み入れています。

**問** 下条小学校の研究成果を受けて、今後本市は、市内の学校に「食農教育」をどのように進めていくのですか。

**答** 地域の方々の協力が不可欠です。食農教育は、世代の異なる者が同じフィールドで、農の文化、農から生まれた食材を用いる食の文化を共有する営みであり、このことが食の伝統・文化・継承につながるものと考えている。

**おもい** 食育についての現状は、豊橋市は田原市とともに、農業体験をうまく使いつながりながら食農教育を推進しているとのこと。

また、食育には少子化対策という目標があり、地域社会が子どもたちを育むという目標もある。食農教育をすすめることで、田原市をはじめ東三河一帯が、やがては一体になることを強く期待します。

また、学びにおいては本市出身の食育の先人「村井弦齋」をぜひ教育に取り入れてほしい。

さらに I LOVE TOYOHASHI で食育と弦齋を世界発信してほしい！

**全てをまとめて質問**

**問 1 点目** 食を創造する「食創」、食を政策施策とする「食策」など、本市は第5次総合計画の策定を目指す中で、『食』をテーマとしたまちづくりについてを、都市(戦略)のビジョンに、上位に位置するプランとすることは考えられないか！

**問 2 点目** 宮城県気仙沼市は豊かな海を背景に「スローフード都市宣言」をしている。翻って本市は海・山・川と3拍子揃った豊富な食に加えて、食育の先駆者「村井弦齋」の出身地。本市こそスローフードの都市宣言に値する都市ではないか。

本市の『食』をテーマとしたまちづくりの目指す先として「豊橋スローフード都市宣言」を視野に入れることができないか！

**佐原市長 答弁**

まちづくりで一番わかりやすいのは、地元のおいしい食を紹介できること。質問にあった、地域ブランドを創出し一定の水準を満たしたものを認証して行くことでブランド力を高めていく取り組みですが、これ自体がひとつの目標となり、地域の食を中心とした特産品の向上に貢献することは理解しています。

実は何とかして、東三河なのか、豊橋なのか、テーマ性を持ったブランドをつくりあげたいと思っているが、なかなか方向性が見出せずもがいているところです。理由はいくつかありますが、ひとつ目は要(かなめ)となる食材を見つけ出すこと、ふたつめはそれを纏め上げていく力であると思う。

先ほど田原市の事例を紹介されましたが、大アサリ等を使ったうまい使い方や、どんぶり街道という統一的なテーマのうまい持ち方、そういったことについては、非常に敬服しています。豊橋は、もう少し大きな範囲で ⇒

**企画部長(答)** 「食をテーマとしたまちづくり」を第5次総合計画へ位置づけること、及び「豊橋スローフード都市宣言」の提案についての考え方ですが、第5次総合計画については、現在、策定作業を進めているところですが、計画をまとめる際には、分野毎の施策を総合的に整理するほか、分野に捉われないことなく特に力を入れて取り組みたい施策を特出するなど、まちづくりの戦略的な方針も打ち出していきたいと考えている。

提案のあった「食」は、産業、交流、文化、教育など様々な分野に関わりを持つ総合的で戦略性の高いテーマであるものと認識している。

今後、食をテーマとしたまちづくりや都市宣言についても、総合計画の検討を行う中で勉強して行きたいと考えている。

⇒まとめていって、ブランドを構築していくことになると思う。今後一生懸命頑張っていくなかで、議論とともに、答えを少しずつ創りたい。

**おもい** 食を中心としたまちづくりの最大の魅力は、いろいろな価値観や思いを持った人や組織が集まって、お互いが意見を交わして手を取り合うことで、より良く生きることを追求することと言われている。これから、本当にトップブランドを見つけていかなければという市長答弁にもありましたように、多くの方が、この地域を豊かにするため、生活の要として食をとらえていただき、環境文化都市に食を加えた環境生活文化都市といえるようなかたちに豊橋が飛躍していくことを強く期待します。

三河の食が日本の、世界のナンバー・ワンになれる！

豊橋の豊かな「食」で目指せ... “ミカワ <sup>ワン</sup> 1”

**“TOKUYA TIMES” 編集後記**

私の公約は豊かに暮らせる地方都市の理想、生活文化都市「豊橋」の実現です。今議会で、やっと端緒につきました。スローライフ + スローフード = スロー・シティ:生活文化都市 世界一すみやすく、文化と活気にみなぎる地方都市の実現に向けて“一所懸命”に頑張ります。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします！

**市政報告会のご案内**

平成21年8月11日(火)午後7時より

松葉町2丁目カリオンビルにて

市政報告会を開催いたします。

今回は現在策定中の平成23年度から向こう10年間の基本構想である第5次総合計画と日本の行方がテーマです。是非お越し下さい。

**発行**

伊藤とくや事務所  
豊橋市松葉町3-70  
FAX: 0532-56-5521  
TEL: 0532-53-4556  
bbito@mx1.tees.ne.jp  
携帯: 090-3855-9696